

学位請求論文の内容の要旨

領 域	健康支援科学	分 野	健康増進科学
氏 名	土屋 涼子		
(論文題目)	意識障害患者を観察する際の看護師の視線行動の特徴		
主 査	野戸 結花		
副 査	小倉 能理子		
副 査	細川 洋一郎		
副 査	西沢 義子		
<p>【背景】</p> <p>意識障害患者の観察場面では、患者自身がうまく苦痛や症状を訴えることができないため、看護師の深い洞察力が必要とされる。これまで、看護記録の分析やインタビュー調査から看護師が行う意識障害患者の観察の実態を調査してきた。看護記録の分析では観察の中心がモニター監視の結果による内容であること、患者の表情は変化をとらえることが難しく、看護記録には記載されにくい項目であることが明らかとなった。また、インタビュー調査から看護師は患者の変化を察知することを念頭に観察しているが、患者の反応が乏しいことで自分自身の観察や判断に自信がもてないと感じていることも明らかとなった。これらの調査から意識障害患者を観察する際の看護師の観察の概要は明らかとなったが、看護師が患者を観察する過程や着眼点については明らかとなっていない。</p> <p>そこで意識障害患者の観察場面における看護師の視線行動から看護師の注目した箇所や観察の過程を明らかにできるのではないかと考えられた。経験豊富な看護師は、状況を直観的に把握し、論理的な推論スキルを用いて問題領域に的を絞ること、事象や結果を予測して看護ケアを行うと述べられている。そのため、看護師の直観能力や批判的思考態度は観察場面における注視や臨床判断に影響を与えると考えられる。</p> <p>【目的】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.意識障害のある患者の観察時における看護師の視線行動、観察に至った根拠の特徴を明らかにする。 2.意識障害のある患者の観察時における視線行動に影響する要因を明らかにする。 <p>【方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.対象：A県内の2病院で脳神経系領域の病棟に勤務し、自発的発語のない患者の看護を行っている看護師19名。研究協力施設の看護部長、師長に対象者の推薦を依頼した。 2.調査内容 			

(注) 論文題目が外国語の場合は、和訳を付すこと。

【細則様式第1-2号続き】

(1)観察場面：模擬患者として既往歴に高血圧がある右被殻出血患者を設定し、患者がベッドで休息している場面の静止画を観察場面として作成した。

(2)調査内容

1)観察時の視線行動の測定：対象者には模擬患者について情報収集を行った後、患者の看護をするために必要な事柄を観察するよう教示した。作成した静止画をタッチパネル式のモニターに映し出し、看護師が模擬患者を観察した際の視線行動を測定した。視線行動の測定にはNAC社製アイマークレコーダーEMR-9を使用した。

2)観察時のアセスメント内容：模擬患者の観察時に対象者が着目した事柄ならびに観察に至った経緯、観察時に最も重要視した事柄とその理由についてインタビューし、ICレコーダーで録音した。

3)直観能力の測定：黒田本質的直観能力尺度(川原ら，1996)を用いた。この尺度は6下位尺度，27項目からなり，尺度全体の α 係数は0.90である。

4)批判的思考態度の測定：批判的思考態度尺度(平山・楠見，2004)を用いた。この尺度は4下位尺度，33項目からなり，下位尺度の α 係数は0.57～0.85であった。

3.調査期間：2016年8月～2017年7月

4.分析方法

(1)観察時の視線行動：解析ソフトを使用して模擬患者観察時の注視時間，注視回数を計測した。視線が0.1秒以上停留した場合を注視とし，患者の顔，左右上下肢，胸腹部，点滴ルート，モニター，畜尿バッグ，膀胱留置カテーテル挿入部・接続部，弾性ストッキング着用部位，血圧計・パルスオキシメーター装着部位，ワークシート・注射指示箋，ベッド柵を注視項目として設定した。各注視項目の注視時間や注視回数を合計した総注視時間，総注視回数を算出した。

(2)統計解析：若手看護師と熟練看護師の注視時間，注視回数の比較には多重ロジスティック回帰分析，注視時間や注視回数に影響を与える要因について重回帰分析を行った。統計解析にはSPSS Statistics21.0を使用し，有意水準は $p<.05$ とした。

(3)観察時のアセスメント内容：インタビュー内容を逐語録にし，テキストマイニング手法を用いてカテゴリー化した。

5.倫理的配慮：弘前大学大学院保健学研究科の倫理委員会の承認を得て実施した(整理番号：2015-020)。

【結果】

1.対象者の基本属性：対象者は若手看護師10名(平均年齢 24.8 ± 3.36 歳，脳神経系領域での平均看護師経験年数は 1.5 ± 0.26 年)，熟練看護師9名(平均年齢 38.3 ± 5.77 歳，脳神経系領域での平均看護師経験年数は 10.3 ± 2.4 年)であった。

2.情報収集，観察時間：模擬患者の情報収集に要した時間は若手看護師が平均 7.6 ± 2.5 分，熟練看護師は平均 7.3 ± 2.08 分であった。平均観察時間は若手看護師が 5.0 ± 2.01 分，熟練看護師は 5.4 ± 1.78 分で，情報収集，観察に要した時間に有意差はみられなかった。

3.注視時間，注視回数：総注視時間は若手看護師 182.7 ± 96.68 秒，熟練看護師 183.0 ± 88.91 秒，観察時間中に注視項目を注視していなかった時間は若手看護師 116.7 ± 96.68 秒，熟練看護師 142.2 ± 62.99 秒で，2群間に有意差はみられなかった。項

目ごとでは、モニターの注視時間は若手看護師が有意に長かった($p<.05$)。若手看護師の総注視回数は 348.5 ± 137.13 回、熟練看護師は 393.6 ± 158.87 回であった。総注視回数、項目ごとの注視回数は若手看護師と熟練看護師とで有意差はみられなかった。

4.注視に影響を与える要因：重回帰分析の結果、模擬患者観察時の総注視時間には本質直観能力尺度の一般教養($\beta =.48, p<.05$)、総注視回数には本質的直観能力尺度の一般教養($\beta =.47, p<.05$)の項目が選択された。また、顔の注視回数には本質的直観能力尺度の論理的思考能力($\beta =.52, p<.05$)の項目が選択された。

5.観察時のアセスメント内容：アセスメントに至った経緯をカテゴリー化した結果、若手看護師からは〈異常の可能性を想定した病状変化の確認〉〈バイタルサイン測定結果による病状や経過の把握〉〈脳疾患によって出現する苦痛症状の確認〉のカテゴリー、熟練看護師からは〈バイタルサイン測定による病状変化の把握〉〈体内へのルート類留置による感染の可能性〉〈身体の動きによる病態変化と療養環境の安全性の確認〉〈経口摂取開始に伴う肺炎予防の必要性〉のカテゴリーが得られた。

6.重要視した事柄とその理由：重要視した事柄は若手、熟練看護師ともに意識レベル、血圧が挙げられた。意識レベルを重要視した理由として若手看護師は〈意識レベル悪化時の医師への報告の必要性〉、熟練看護師は〈発症急性期の意識レベル変化の可能性〉、血圧では若手看護師からは〈血圧上昇による出血増大の可能性〉、熟練看護師からは〈出血増大予防のための血圧管理の必要性〉のカテゴリーが得られた。

【考察】

1.若手看護師と熟練看護師の視線行動の差異

今回の調査では若手看護師と熟練看護師の観察時間、総注視時間、総注視回数に有意差はみられなかった。本調査で設定した模擬患者は脳出血発症後の間もない時期であったため、若手、熟練看護師ともに患者の病態変化を捉えながら観察することで、若手看護師も一定レベルの観察を行うことができていたと推察される。

2.若手看護師と熟練看護師のアセスメント内容の差異

若手、熟練看護師ともに観察に至った経緯として〈病状〉変化の確認に関する内容のカテゴリーが得られた。しかし、若手看護師は患者の状態の変化の確認に留まっている一方で、熟練看護師は現在の状態把握に加えて、今後患者に起こりうる問題を予測しながら観察する傾向にあった。

3.注視時間、注視回数に影響を与える要因

顔の注視回数には看護師の本質的直観能力尺度の論理的思考能力の項目が影響していた。顔から得られる情報は多岐にわたるが、特に表情等の微細な反応が患者の状態の変化に関連していると考えられ、顔の観察には看護師の推論に影響する論理的思考能力が選択されたと考えられる。

【結語】

1.若手看護師、熟練看護師の注視時間、注視回数の差はみられなかったが、若手看護師は把握している状態との変化を確認しながら観察し、熟練看護師は今後起こりうる問題を予測しながら観察を行っていた。

2.模擬患者観察時の注視時間、注視回数には本質的直観能力尺度の一般教養が影響し、顔の観察には論理的思考能力が影響していた。

【細則様式第 1 - 2 号続き】

学位論文のもととなる研究成果としての筆頭著者原著

論文題目	The characteristic of nurses' eye movements during observation of patients with disturbed consciousness
著者名	Ryoko Tsuchiya, Mayumi Shimizu, Kasumi Mikami, Keiko Aizu, Yuichi Hirakawa, Sonoko Takase, Yoshiko Nishizawa
掲載学術誌名	Open Journal of Nursing
巻, 号, 項	7 巻 12 号 1502-1514 項
掲載年月日	2017 年 12 月 28 日